第３８号　2013年４月３０日

カトリック仙台司教区・ カリタスジャパン
東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫　編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

社会では、３月、４月は歓送迎会シーズンですが、社会の中に生きている教会も、もちろんそうで、教会の司祭人事異動、そして、仙台教区サポートセンター、各ベースでも責任者の交代がありました。仙台教区サポートセンター事務局長は、成井大介神父から小野寺洋一神父に交代となりました。成井大介神父は、３月 31 日をもって、名古屋の神言会本部に戻り、ローマの総本部の職務に就かれました。また、３つのベースにおいて、ベース長の交代がありましたので、お知らせいたします。

今回は、上記の人事に関する記事と、ＮＰＯ法人格を取得した２団体のご紹介、そして、カリタスジャパンの支援を受けてオープンにこぎつけた南三陸の入谷デイサービスセンター落成式と陸前高田の未来商店街のオープニングをご紹介いたします。

「２年が過ぎて」
成井 大介

被災地に生きる人にとって、この２年という時間は長いのか、短いのか、よくわからないものではないかと思います。３月 11 日までそこにあった街が、家が、がれきで埋め尽くされ、ともにいた人がいなくなってから、避難所、仮設住宅と住まいを移してきたという、めまぐるしい変化に振り回されてきた２年間。そして、いなくなってしまった人を思い続けた２年間。もはや時間という尺度でこの期間を測ることができなくなってしまったのではないでしょうか。何十万という人がそのような気持ちで今を生きていることを思うと、この「東日本大震災」という出来事が、２年前の一時的な出来事に過ぎないのではなく、今まさに人々を襲い続けている震災なのだと思い知らされるのです。

私事にて恐縮ですが、私はこの３月末を持って仙台教区サポートセンターの事務局長を退任いたしました。今後は司教協議会の復興支援室のいちスタッフとして支援に関わらせていただきます。

「被災された方が主役」「地元が中心」という方針でこれまで支援を続けてきましたが、私の役割は主に「調整」でした。仙台教区における復興支援活動は、現場で実際に活動を展開する人、裏でそれを支えるために調整する人、全国から募金やボランティア活動で支えてくれる人など、多くの役割をたくさんの方が担ってはじめて実現するものです。調整役は、現場で被災された方と会うことは少なく、パソコンに向かうことが多い地味な役割ですが、現場のスタッフと全国からの支援者の橋渡し役なので、非常にやりがいがあります。時間がたてばたつほど、いわゆる「現場と外の温度差」というものが広がっていくわけですが、調整役はどちらかの温度に合わせるのではなく、自分のところで温度差を吸収して現場と支援者のやりとりがスムーズにいくようにすべきではないかと思っています。そうした役割を、すばらしい仲間と一緒に２年間続けてくることができたのは、「激烈に」うれしいことでした。支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。そして、これからも様々な形で支援に関わってくださるよう、お願い申し上げます。

成井神父と育てていた観葉植物

「共にあることが喜びの源」
小野寺 洋一

震災直後、仙台教区サポートセンター立ち上げから今日まで約２年間、屋台骨を支え続けてこられた成井大介神父様の移動に伴い、2013 年４月からその後任として配属されることになりました仙台教区司祭・小野寺洋一です。

引き継ぎのため事務局のある元寺小路教会 2 階を訪れてみて最初に感じたこと、それは「想像していたよりもだいぶコンパクトだな」という印象でした。というのも広範囲にわたる活動拠点をカバーし、ベースの運営とボランティア活動を円滑に進められるようサポートしてこられた本部が、それぞれの役割を持つほんの数名のスタッフの手によって担われていることに気づかされたからでした。

その役割とは、総務・会計・広報・ベース・ボランティア受け付けの各担当です。個々の担当業務をこなしつつ、他担当者との連携も欠かさず、その上で一日も途切れることのない活動が展開されているのでした。もちろん祈り、資金援助などの助けなしには成立し得ないわけですけれども…。

４月 16 日現在、延べ 7,393 人のボランティアさんが訪れてくださっています。中にはリピーターの方も多く、無報酬、交通費は実費、作業は決して楽ではない、これを体験された方々が二度三度と足を運んでくれるのはなぜだろうと驚きと共にその理由を自分なりに考えてみました。

おそらく行った側も迎えた側も相互に「必要とされている」ことをしばしば感じ合えたからなのだろうと思われます。共にあることが私たちの本当の意味での喜びの源なのでしょう。

ボランティア活動の場だけではなく、家庭・学校・職場・地域などどこででも喜びの輪が広がりゆきますように。

ボランティア急募のお知らせ

各ベースでは、ボランティアを募集しています。
特に平日のボランティア数が少なく、困っております。
皆様のお力を貸してください。ご協力をよろしくお願いします。

お申し込み方法など詳細は、各ベースのブログや
カリタスジャパンブログ http://caritasjapan.jugem.jp/を
ご覧ください。

2013年４月１日付で、下記の通り３つのベースのベース長が交代となりましたので、お知らせします。

《ベース長交代》
石巻ベース：Sr. 杉田紀久子→Sr. 細谷朋子
大槌ベース：古木眞理一神父→川口茂助祭
大船渡ベース：ハルノコー神父→Sr. 吉澤タキ子

有り難うございました！

この春、大槌ベースの古木神父様、大船渡ベースのハルノコー神父様、石巻ベースのシスター杉田がそれぞれベース長としての任期を終え、ベースを離れることとなりました。また、スタッフの皆さんの中にも、この春で活動を終えられる方が何人かいらっしゃいます。ベース長として、スタッフとしてのこれまでのお働きに心より感謝申し上げます。

石巻ベースは2011年３月に石巻教会でスタートを切り、同年８月には教会から徒歩10分の距離にある建物に移りました。

大槌ベースは、津波ですべてが流されてしまった地域にぽつんと残った建物を修繕し、2011年12月に開設されました。

大船渡ベース
ハルノコー神父

大船渡ベースは、2012年１月、大船渡教会や仮設住宅が建つ丘の麓に建てられました。

それぞれのベースにおける活動は、地域の人々に受け入れられ、現在では仮設住宅や借り上げ住宅におけるお茶っこや個別訪問、漁業支援などの活動を展開しています。それは、「助けてあげる」というよりはむしろ、そこに住んで日々の営みをともにするという活動であり、リピーターとして繰り返し現場に来てくれるボランティアさんたちは、そうした営みをともにするのがうれしくて来ておられるのではないかと思います。

大槌ベースの説明をされる古木神父

ベースでの仕事というのは、主に「ベースにおける近隣の方やボランティアも含めた共同体形成」、「支援活動」、「活動を回すための事務」の３つの内容に分かれます。思うに、ベース長の最も大切な仕事の１つは、この３つのバランスを取ることではないでしょうか。

いずれかがおろそかになると、他の２つもうまくまわらなくなります。この春ベースを離れられる３人のベース長は、その意味で非常に素晴らしいベース長でいらっしゃいました。ボランティアさんたちが繰り返し訪れるベースを支えてくださり、2013年度の活動のための、しっかりとした基礎を作って下さった３人とスタッフの皆様に感謝！

後方　左から３番目：Sr. 細谷、５番目：Sr. 杉田

陸前高田
未来商店街オープン！

３月23日、重機によるがれきの片付けがようやく一段落しようかという陸前高田市の丘の上に、陸前高田未来商店街がオープンしました。死者、行方不明者は岩手県最多の1500人を数え、今は更地になった市街地に砂埃がもうもうと舞う陸前高田。復興どころか、ようやく復旧へのあゆみが目に見える形で現れてきたこの地域にあって、未来商店街のオープンは人々の生活に明るい未来への灯火をともすものではないかと思います。

未来商店街は、元々あった商店街の店主が再立ち上げしたのではなく、新しい商店街を作ろうと、やる気のある店主さんたちが集まってきてできた商店街とのこと。これからの発展が楽しみです。カリタスジャパンは未来商店街設立の計画段階から関わり、電気や水道設置を支援しました。

南三陸町に
デイサービスセンター開所！

宮城県南三陸町は、陸前高田と同じく、津波による壊滅的な被害を受けた町です。ここで、米川ベースは瓦礫の撤去、漁業・農業支援、仮設住宅などでのお茶っこなどの支援を続けています。米川ベースは南三陸町社会福祉協議会との連携のもと活動を進めていますが、そうしてできた漁師さんや農家さんとのつながりを通して、これまでカリタスジャパンによるフォークリフトやトラクターなどの支援が実現してきました。

そして今回、震災で流されてしまった、南三陸町志津川にあった社協のデイサービスセンターを、ひとまず入谷と戸倉の２カ所に分割して新造する計画が立てられ、米川ベースの仲介を得て、カリタスジャパンが支援しました。

３月24日に入谷デイサービスセンターが無事開所し、多くの人がお祝いに駆けつけました。６月には戸倉のデイサービスもオープンの予定です。人が集うところを奪うのが津波です。高齢者の方々が集う場ができたことは、南三陸の人々にとって大きな意味を持っているのではないでしょうか。

特定非営利活動法人カリタス釜石　始動！

2013 年３月７日（木）釜石ベースは、野田武則釜石市長より「特定非営利活動法人」の認証書の交付をいただき、４月１日に「特定非営利活動法人カリタス釜石（以下、「カリタス釜石」）」として活動を開始しました。仙台教区サポートセンターカリタス釜石ベース開設からこれまで、様々な形で支えてくださった皆様方に、改めて感謝申し上げます。

NPO 法人　認証式

最初に、これまでの活動を少し振り返りたいと思います。私たちの活動の原点は、2011 年３月 13 日に釜石教会と遠野教会の有志の信徒、そして釜石教会の近隣の方々による境内の瓦礫や流木の撤去から始まりました。そして４月２日に仙台教区サポートセンターが釜石教会にベースを開設いたしました。

釜石ベースを訪れるボランティアは信仰、性別等を問われることなく参集し、瓦礫の撤去や写真洗浄等の活動を行いました。活動終了後はベースに戻り、温かい食の提供を受け、語らい、一日の疲れを癒します。またタのミーティングではそれぞれが一日の活動で感じたことを他のメンバーと分かち合う時間を持ちます。

そんな釜石での生活を終えて帰るとき、多くのボランティアは「ここでの生活は家族のようだった」と振り返り、リピーターとして再び釜石に帰ってくる方も少なくありません。この数は延べ３千人に達し、これは釜石市の交流人口の促進につながっています。

この２年を振り返り、私たちは専門家がほとんどいない中、「精神的ダメージのケア」と「コミュニティ形成支援」という目的を掲げて活動してきました。私たち一人ひとりは、とても小さな存在ですが、それでも今日、被災地の皆さんに私たちの活動が評価され、「カリタスさん！」あるいは「教会さん！」と親しく住民の皆さんに声を掛けていただいています。これは、多くのボランティア一人ひとりが、真心をリレー（連鎖）でつないできたことによるものだと思います。改めて釜石で活動してくださった方に感謝申し上げます。

次に、「カリタス釜石」としての活動ですが、これまでの活動を大きく変更することなく次の３つの事業を軸に展開していきます。

（１）　被災地復興支援事業

あの日から２年は経過しましたが、人々の心の傷は人の力では消し去ることが困難なほど深いものです。しかし、寄り添うことにより、その人の孤独・孤立を防ぐことに繋がります。特にこれから復興住宅が完成し、入居が開始されるとまた仮設住宅を中心に人の移動が始まります。その時期にあたり、人々に「取り残された感」を感じさせないように、これまで同様、仮設住宅団地等でお茶っこサロン活動や炊き出し活動を行っていきます。

（２）　市民活動センター運営事業

行政や社会福祉協議会あるいは他団体との協働、協調を密にし、「共同体の再構築」という課題に取り組む。

（３）　女性サポート部門事業

釜石では新しい活動として、女性また子供に特化して DV（ドメスティックバイオレンス）等の課題に取り組んでいこうと考えています。閉塞感が問題視される仮設住宅での生活が長期化する中で、住民の皆さんのストレスをどのように解消していくのかを、専門家とのつなぎを進めていきたいと考えています。

最後に、これまでは、資金的にカリタスジャパンのご協力を仰いできましたが、恒久的に地域に根ざした市民活動を目指していく上で、「カリタス釜石」として、直接個人の皆様のご寄附や企業、各種 NPO、行政の皆様のご支援をお願いしたいと思います。また、仮設住宅などでのサロン活動においては、顔の繋がった関係を築いていく上で、今後一層各教会共同体等への働きかけを行い、釜石へのボランティアに対する理解と実際の体験をお願いできればと考えています。

「カリタス釜石」が、人々に寄り添い、優しい街づくりのお役に立てますように、今後とも皆様のご協力とお祈りをよろしくお願いいたします。

カリタス釜石
設立記念食事会・理事会・設立記念ミサ　開催

2013 年４月１日、NPO 法人カリタス釜石の設立を記念して食事会が行われました。

理事長の平賀徹夫司教をはじめ、小松史朗神父や釜石のスタッフが集まり、2011 年の東日本大震災が起きてから設置されたカリタス釜石ベースの今までの活動や今まで来てくれたボランティアの話などで盛り上がりました。また、食事会を開いたお店は、津波の被害を受け、しばらく営業できなかったところであり、ここで食事をすることもなにか意味を感じるものとなりました。

翌日４月２日、NPO 法人になって第一回目の理事会が行われました。

すべてが初めてのことばかりの為、理事たちは少々緊張した面持ちで話し合いが始まりました。午前で終了する予定でしたが、議題が多くあったことも影響して昼食をはさみ午後も活発に話し合いが行われました。

またこの日は、午前 11 時より「NPO 法人カリタス釜石設立記念ミサ」が執り行われ、釜石教会や大槌ベース、釜石ベースからも信者、未信者を問わず多数参加しました。たまたま視察に訪れていた東京教区の神父さまも加わり、とても慰められる力強いミサでした。これまでの歩みを思い起こしたり、自身の想いを巡らせたり、ひとつの節目を迎えたことを感じました。昼食にはボランティアさんが作った絶品スープやサンドイッチを頬張り、ミサに参加した信徒さんも一緒にお喋りを楽しみながら過ごしました。ボランティアと釜石教会のみなさんが一緒にこの日を過ごせたことの中に、この２年間の交わりや絆の結実を見た思いがしました。

小教区とカリタスのボランティアベースの連携が祝福され釜石の復興に貢献することができるよう願ってやみません。被災された方々や近隣の方々、そして地域に開かれたベースとなっていけるように、これからも皆様のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

特定非営利活動法人 カリタス釜石 事務局

特定非営利活動法人
福島やさい畑～復興プロジェクト　設立

平成 23 年３月 11 日､東日本大震災による福島第一原発事故勃発。この事故は、福島産農産物の出荷停止や県内外の消費者が福島産農産物を避けるようになったなど、農業従事者が多い福島県にとって大打撃となりました。そのような事態を受けて、専門家、農家、関係者らによる打開にむけての取組みがすぐに始まりました。専門家の指導の下、除染作業やゼオライトの散布、表土の除去などの作業が懸命に行われてきました。

それから丸２年が経ち、努力の結果､ある専門家が「福島の奇跡」と呼んだように、測定において、福島産の農産物のほとんどが放射能不検出となりました。しかし、それでも風評被害だけは今なお根強く残り､その状況は看過できない深刻さを呈しています。

山口神父様（理事）（左）とスタッフ

愛する郷土の復興を願い、農業県福島の再生のために「福島やさい畑～復興プロジェクト」を 2012 年４月に立ち上げ、安全確認された農産物を農家から買い取り、販売してきましたが、３年目になる今も事態は好転していません。

このように福島の復興にはこれから多くの時間を要し、私達の活動も長期的になることから、「特定非営利活動法人」を取得し、2013 年４月８日に設立しました。今後、多くの方々の差別意識を払拭し、他人事とは思わず、日本人の食と農業の問題として共に考え、共に復興への道を歩んでいきたいと考えております。

農業県である福島がこうした事態に陥ったことは、日本の農業全体の問題であり、食品の多くを輸入に頼っている日本人の食と農業のあり方について、根本から考え直すようにという神からの問いかけであると思えてなりません。

今後、首都圏での直接販売、WEB ショップでの販売、仮設住宅の方々への野菜支援などの活動に加えて、福島県民と福島農産物に対する正しい理解を求め、さらには神からの恵みによる営みである農業に対する関心を持って頂きたいと願っています。

従来より「自然農法」で取り組む農家の多い福島県の農業の価値がやがて理解され、今まで農業に関心のなかった方も目覚めて、共に新しい農業国日本を築いていくことができればと願ってやみません。その日が来るまで、がんばれ福島！　負けるな福島！

理事長　柳沼千賀子

首都圏での野菜販売風景

特定非営利活動法人
会員募集についてのお知らせ

今回ご紹介した特定非営利活動法人では、目的(趣旨)に賛同していただき、活動にご協力いただける個人及び団体の方(会員)を募集しています。詳しくは、お問い合わせ先へご連絡ください。

《カリタス釜石》

【目的】

カリタス釜石は博愛精神に基づき、東日本大震災によって被災した人々に寄り添い、自立を促し孤独孤立の防止に努めます。また、女性や子ども等、弱い立場に置かれた人々の人権擁護のための事業に取り組みます。一人ひとりが尊重される優しい社会を目指し、新しい釜石の「街づくり」に貢献します。
（定款第２章第３条　目的）

【会員の種類】

・正会員：この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
（総会での議決権があります。）
・賛助会員：この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体
（賛助会員は財政的にご支援頂ける方で総会での議決権は、ありません。）

入会金・年会費、会員お申込方法等は、ホームページをご覧いただくか、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人カリタス釜石事務局
〒026-0022　岩手県釜石市大只越町 2-4-4
電話/FAX　0193-27-9030
E-mail　kamaishi311@gmail.com
ホームページ　http://www.caritaskamaishi.com

《福島やさい畑～復興プロジェクト～》

【趣旨(目的)】

特定非営利活動法人　福島やさい畑～復興プロジェクト～は、原発事故による風評被害を受けている原発被災地「ふる里福島」の農家の作物について、放射能測定検査の充実を図り、全国の消費者に安全性を訴えて購入を願う活動を行うとともに､日本の農業問題について再考し「農業県福島」の復興を目的とする。

【会員の種類】

・正会員：法人の目的に賛同し、入会した個人及び団体
（福島で開催される総会での議決権があります。）
・賛助会員：法人の目的に賛同し、賛助の意志を持つ個人及び団体

年会費や会員入会方法につきましては、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人　福島やさい畑～復興プロジェクト～事務局
〒964-0906　福島県二本松市若宮 1-361
電話/FAX　0243-23-3037
E-mail　yasaibatake2012@gmail.com